2026 年 8 月　ver.1

研究課題名	全自動遺伝子解析装置 GENECUBE を用いた臨床的に重要な *Aspergillus* 属 4 セクション迅速鑑別系の構築
研究の意義・目的	アスペルギルス症は、*Aspergillus*（アスペルギルス）属という真菌（カビ）によって引き起こされる感染症です。特に免疫機能が低下した患者さんに発症する侵襲性肺アスペルギルス症は、重症化することがあり、早期に原因となる真菌を検出し、適切な治療を開始することが重要です。しかし、一般的に行われている培養検査では結果が得られるまでに時間を要する場合があり、より迅速な検査方法が求められています。 本研究では、当院で日常診療の検査に使用した後に保存されている真菌の菌株を用いて、遺伝子検査装置 GENECUBE®による *Aspergillus* 属の迅速な検出・鑑別方法について検討します。本研究により、主要な *Aspergillus* 属を短時間で検出・鑑別できる検査法の開発につながることが期待されます。将来的には、アスペルギルス症の迅速な診断や、適切な治療法を選択するための検査法の確立に役立つ可能性があります。
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～　2027 年 12 月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2017 年 1 月～2026 年 6 月に大阪公立大学医学部附属病院微生物検査室で実施された微生物検査で真菌が分離され、その菌株が保存されている方。ただし、本研究では真菌のみ使用するため、患者様の診療情報は使用しません。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で行われた微生物検査において分離され、当院微生物検査室に保存されている下記の試料を本研究に使用させてください。 ・日常診療の微生物検査で分離された真菌の保存菌株 なお、本研究では患者さんの診療情報は使用せず、本研究のために新たな検体採取や検査を行うこともありません。

試料・情報を利用する者の範囲および管理について責任を有する者の研究機関の名称	この研究は、大阪公立大学医学部附属病院感染制御部のみで行います。 【研究責任者】大阪公立大学医学部附属病院感染制御部　副主幹　仁木　誠
個人情報の取り扱い	この研究にご参加いただいた場合、あなたから提供された診療情報などのこの研究に関するデータは、すぐには個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されます。 この研究から得られた結果が、学会や医学雑誌などで公表されることはあります。このような場合にも、あなたのお名前など個人情報に関することは含まない形で公表されます。
本研究の利益相反	本研究の利害関係については、各研究機関で定められた利益相反マネジメントの規定等に従って必要に応じて各研究機関の利益相反マネジメント委員会へ報告を行うことにより、利益相反を管理し研究を遂行します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院　感染制御部 担当者氏名：小川　将史 電話番号：（06）6645-2213